

公益財団法人 名古屋産業科学研究所第36回産業科学フォーラム開催報告

日 時 : 2019年6月28日(金)14時~15時25分

場 所 : 名古屋大学 VBL棟(4階)セミナールーム

趣 旨 : 地球の温暖化に伴い、豪雨・洪水災害が続発している。大規模自然災害に対してハード整備だけではなくソフトな対応を含めた防災への意識改革が必要である。今回は水防災システムの技術展開や学の役割についての幅広い議論を行いたい。

講 師 : 辻本哲郎 上席研究員(名古屋大学名誉教授)

講演タイトル : 激甚化する豪雨・洪水に備える治水・水防災

講演概要

辻本上席研究員は、産業科学フォーラム 2015 で「河川生態系の保存と修復」をテーマに講演されているが、今回は豪雨・洪水対策への対応などへの関心の高まりから、講演を行っていただいた。

治水は建設を含むハードな防御策、水防災は減殺・避難を中心としたソフト防御策と基本的説明の後、ハードとソフト面の連携、行政と産業界・学界の連携の必要性を中心に、主に治水についての話題が提供された。治水は、対象を設定し防災計画を立て、施設的设计・工事、最終的には維持管理と進むが、その施設に「脆弱さ」があると豪雨などの巨大外力にさらされたときに氾濫が生じる。そこで、日ごろから水防災のための危機管理が必要となるが、これまでは、豪雨・洪水災害への対応は国主導で、ソフト面での対応が遅れていた。このため、治水工事分野と防災や復興などの分野が特化しすぎている傾向があり、分野間の連携がよいとは言えなかった。

辻本上席研究員らが進めている官産学の連携の取り組みとして、現象を解析する官産学のソフトウェアを共通のプラットフォームで使用する例が紹介された。また、頻発・激甚化する豪雨・洪水災害とそれらへの対応が紹介された。現状の枠組みにとらわれず、関係機関の連携した行動規範の策定と改訂を目指し、災害理解のシナリオづくり、情報共有の必要性、広域避難の受け入れも含めた再検討などの項目について紹介された。行政の防災計画への産学の参画の重要性を強調されたのが印象的であった。



辻本上席研究員と討論者

討論では、スーパー台風の高潮による浸水の被害想定、スムーズな避難への課題などが議論された。

(文責 山根隆)

講演終了後、上席研究員懇談会が開催された。

研究会の現状と新しい企画が討論された。会員を集める努力は研究部の藤沢副部長で行うので、積極的に提案して欲しいとのコメントがあり、廃棄プラスチックの回収に関する研究会の提案がなされた。